

「記録はイチローくんに残して、記憶はボクに残して」という言葉通り、選手時代そして監督として活躍する現在に至るまで、新庄さんは私たちの記憶にはっきりと残る、様々な発言やパフォーマンスを繰り広げています。あるときは、ドーム球場の天井から降りてきたり、またあるときは、球場内をバイクで走ったり。その奇抜な行動の数々は、長い歴史を持つ日本の野球界においては異端な出来事だったでしょうが、私たち見る側からすれば、とても楽しいものです。

新庄さんのホロスコープを読み解くと、そういう今までにはなかったことや誰もやって来なかった事例を自分が残したい、という強い思いがあると同時に、オリジナリティ溢れるそういった企画を生み出す才能に、実際とても恵まれていることがわかります。

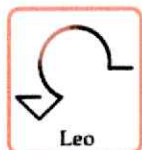
アイデアを考えると新庄さんが大切にしているのは、「自分にしかできないこと」。誰にでもできることや、前例があることには何の興味も示しません。「そのプロジェクトを、世界で一番最初に実行したのは自分」というポジションが欲しいのです。このスタンスは、上手くいけば「彼にしかできない」という唯一無二のブランドを確立することができますが、空回りすればヒンシュクを買います。とてもリスクの高い挑戦ですが、どちらに転ぶにせよ、行動の原点が「人と違うこと」なので、風変わりだとかちょっと変わってるといった評判は避けられないでしょう。

なぜそんなリスクを背負ってまで、人と違うことにこだわるのか。そこには「自分を認めてもらうことで、自分を肯定したい」という強い承認欲求が潜んでいるように思われます。あんなにもはっきりと自己主張が出来、自信ありげな態度からは想像しにくいのですが、新庄さんの心には自分を否定する気持ちが色濃く存在しているようなのです。「自分には価値がない」「自分の存在意義とは？」など、常に自分について思い悩んでいるようです。

この悩みの根源は、自己肯定を他人からの承認に頼っているところ。「新庄さんてすごい！」とか「新庄さんしかできないよね！」と言われることが、どんなことよりも嬉しいのです。そうやって多くの人からの「いいね！」の多さが、「オレって価値があるんだ」という自己肯定感に直結しているのです。

確かに、褒められると誰でも嬉しいものです。しかしそこに依存してしまうと、褒められることでしか自分を保てなくなってしまう。他人からの





称賛だけが、自己肯定感を高めるわけではありません。自分で自分を肯定することも大事です。

例えば、休み前の勤務が終わったら、好きなセブンイレブンの唐揚げ棒を食べるだとか、家で飼っている犬と遊ぶのが一番楽しいとか。そういう、いつもそばにある自分にとっての幸せを楽しむ。この積み重ねでも、自己肯定感が高まるのではないのでしょうか。

あまり自分を否定せず、他者からの承認だけに頼らなくても、新庄さんには誰もが認めるエンターテイナーとしての素質があるのですから、純粋に自分の「好き」を極めてみるのも、自分を救う強力な方法だと思うのです。

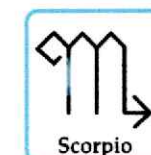
°°*°*°*°*°*°*°*°*°*°*°*°*°*°*°*

オンリーワンへの道のりは陰しいだけでなく、孤独との戦いでもあります。誰とも違う存在を目指すことは、保守的な日本において好奇な目で見られることも多いでしょう。また、それまでの常識や慣習に逆らう行為でもあるわけですから、周囲との軋轢が生じる場面も一度や二度ではなさそうです。

それを裏付けるかのように、新庄さんを取り巻く星たちは、その人生がトラブルに見舞われることが多いだろうと告げています。

ただ、ここで「さすが新庄さん」と思うのが、トラブルのひとつひとつを楽しんでしまうところ。むしろ何かしらのいざこざが発生したら、「来た来た！」と心が躍ってしまうほどでしょう。常に不安定で不幸な状態に身を置くのが気持ちいいという、マゾ的な感覚がありそうです。さらに、どれだけピンチな状況に陥ったとしてもなんとかなってしまう、持ち直してしまうという回復力が備わっています。星たちが何度でも新庄さんを復活させ、再生してくれるのです。

そんな星たちの強力なバックアップを受け、新庄さんは積極的に行動を起こします。そこに計画性はなさそうです。思い立ったら即行動。せっかち





で、行き当たりばったりです。しかしデメリットを考えて慎重になったり、タイミングを計るといった「時間を持つ」ことは苦手でしょう。そうやって一刻も早く結果を求めるのは、一番になりたいという思いのほかに「自分をもっと成長させたい」といった未来の自分を期待する部分もあるのではないのでしょうか。

新しいことにチャレンジすることは、未知の世界へ続く扉を開くことになります。そこになにがあるのか、自分がどうなってしまうのかわからないといった不安はあります。しかし扉の向こうには、希望と楽しみが待っている。新庄さんはそう思って、常にアグレッシブに生きているのだと思います。

2020年のシーズンオフ。新庄さんは契約が自由になった野球選手たちが、来シーズンの活躍の場を求めて参加するトライアウトに姿を表し、世間を驚かせました。このとき彼は48歳。しかし年齢を感じさせない動きや、そこそこの成績を残したことで、「これは本当に、新庄さんを獲得する球団が出てくるのかも!」と、多くの人が結果発表を心待ちにしたのでした。

残念ながら新庄さんにオファーを出す球団は表れませんでした。彼はトライアウト終了後のインタビューで、「いくつになっても挑戦した自分に悔いはなし!」と語りました。年齢に関係なく、やりたいことを全力でやる。その気持ちが、不安や慎重になる気持ちを上回ってしまうのでしょう。

°°*°*°*°*°*°*°°*°*°°*°*°*°°*°*°°*°*°°°*°*°°*

現役を引退してから14年も過ぎて突然トライアウトに参加した理由を、新庄さんは次のように語っています。「今さらプロ野球選手を目指すなんてバカげてるってよく言われたけど、オレはコロナで落ち込んでいる人たちに希望を与えたい」。

トライアウトを受けるまでの一年間、新庄さんはトレーニングに全力を費やしました。「プロ野球選手として復活したい」と言う気持ちは冗談なんかではなかったと思います。しかももうひとつ、彼がこの挑戦に時間や体力、そして氣力を投入したのは、ファンや多くの人を喜ばせたいというホスピタリティの精神に突き動かされたからだと思うのです。

